

京都洛東

真如堂

鈴聲山 真正極樂寺





初夏の正面参道と本堂

真如堂は、正式には鈴聲山真正極楽寺といい、比叡山延暦寺を本山とする天台宗の寺院です。

今から、約1千年前の永観2年(984)、比叡山の戒算上人が、比叡山常行堂の本尊阿弥陀如来を、現在の地近くにあった東三條女院(藤原詮子。円融天皇女御・一條天皇の御母)の寝殿に堂荘厳を施して安置したのが始まりです。

その後、一條天皇の勅願寺となり、また不断念仏の道場として浄土宗の開祖法然上人や浄土真宗の開祖親鸞聖人をはじめとする多くの念仏行者や民衆の篤い信仰を集め、特に女人の深い帰依を受けてきました。

しかしながら、応仁の乱(1467~77)の戦禍に遭い、御本尊は比叡山の黒谷、滋賀県穴太に遷座。その後、足利義政公の帰依を受けて旧地に復座するも、足利義輝公の菩提を弔うために室町勘解由小路に移転。さらに一条西洞院に移転した後、豊臣秀吉公の聚楽第建設に伴って寺町今出川に移転(1578)。元禄6年(1693)の東山天皇の勅により、ようやく現在の地に戻って再建されました。

1万2千坪の境内には、15間四面の堂々たる本堂の他、総門、元三大師堂、鐘楼堂などが並び、文化年間に再建された三重塔が趣を添えています。

寺室には、運慶の発願によって書写された法華経、遣唐使船や応仁の乱の合戦場面などで知られる真如堂縁起などがあります。

全国の浄土系の寺で行われる「お十夜」法要の発祥の地であり、また慈覚大師が唐より招来した「引声念仏」を伝承する、四季折々に美しい念仏の寺です。



春日局お手植えの縦皮桜

四



6月中旬に見頃を迎える菩提樹

■主な行事

- 節分会日数心経 ●節分と同前日
- 大涅槃図公開 ●3月中
- 宝物虫払会 ●7月25日
- 精霊送り灯ろう供養会 ●8月16日
- 引声念仏会 ●10月14～16日
- 大観経曼荼羅公開 ●11月中
- お十夜 結願大法要 ●11月15日
- 除夜の鐘 ●12月31日
- 元三大師護摩供 ◆毎月3日
- 六阿弥陀巡拝会 ◆毎月功德日



紅葉の見頃は11月下旬～12月上旬



季

枯淡の味わい 雪景色

■花 暦

- 馬酔木 ●1月中旬～4月中旬／本堂北側
- 山茶黄 ●3月彼岸頃／本堂裏
- 桜 ●4月初旬／境内全域
- 藤 ●4月中旬～5月初旬／本堂南側
- 新 緑 ●4月中旬～5月下旬／境内全域
- 紫陽花 ●6月初旬～7月初旬／境内各所
- 菩提樹 ●6月中旬／本堂正面右
- 沙 羅 ●6月下旬／本堂正面左
- むくげ ●7月中頃～9月中旬／総門付近
- 百日紅 ●8月初旬～8月下旬／三重塔付近
- 萩 ●9月初旬～10月上旬／境内各所
- 紅 葉 ●11月中旬～12月初旬／境内全域



8月16日 精霊送り灯ろう供養会



1988年、曾根三郎氏によって作庭された 涅槃の庭。ガンジス川支流の沙羅の林の中で、北（向かって左）を頭にしてお釈迦さまが入寂され、その回りを弟子や生類たちが囲んで嘆き悲しんでいる様子が、石組や白砂、植栽などによって表現されています。垣根の向こうには大文字山などの東山が横たわっています。



徳川綱吉公・桂昌院殿寄進の宮殿にまつられる<左から>不動明王・阿彌陀如来・千手千眼観音。11月の十夜法要の時などに開扉されます。

本尊阿彌陀如来は慈覚大師円仁(794-864)作。完成間際に、大師が「比叡山の修行僧のための本尊になってください」と眉間に白毫を入れようとすると、如来は首を振って拒まれました。「それでは都に下って、すべての人々をお救いください。特に女の人をお救いください」と言うと、如来がうなづかれたところから、「うなづきの弥陀」とも呼ばれています。手は「すべての人を救おう」という誓願をあらわした「九品来迎印」を結んでおられます。

如来は、戒算上人と東三條女院の夢枕に立った老僧のお告げにより、女人禁制の比叡山から京の都に遷座され、真如堂の御本尊としてまつられるようになりました。

不動明王は、陰陽師安倍晴明の念持仏。晴明公が突然死して閻魔王の前に引き出された時、この不動明王が大王に懇請して晴明は蘇生したといひます。その時、閻魔王は、「是は我が秘印にして、現世には横死の難を救い、未来にはこの印鑑を持ち来る亡者決定往生の秘印なり」と言って、晴明公に印を授けました。

不動明王と印は晴明公の逝去後に真如堂へ納められ、印紋は今も参拝の方々に授与されています。

千手千眼観音は、伝教大師作と伝えられています。

この他、境内の諸堂には元三大師像、洛陽三十三所観音巡礼第5番の新長谷寺観音、那須の殺生石で作られた鎌倉地藏、御所の梶井から出現した梶井観音、信濃善光寺如来出開帳に因んだ善光寺黒如来などの霊仏がまつられています。



決定往生之印



2010年、重森千青氏によって作庭された 随縁の庭。背後にある仏堂の墓股に付けられた四つ目の家紋に因んでデザインされました。「随縁」とは、事象が縁によって様々な現れ方をすることをいいます。



鈴聲山 真正極楽寺 真如堂
 〒606-8414 京都市左京区浄土寺真如町82 TEL 075(771)0915 FAX (771)1823 <http://shin-nyo-do.jp>